

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)
科目名	保育実習 I	授業形態	実習	単位数	4単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園幼稚園小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ●実習生の姿勢態度 <ul style="list-style-type: none"> ・園や施設の方針を理解した上で適切に行動する。 ・目標を明確にし、向上心を持ち、実践的に学びを積むことができる ●知識、技能 <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容に合った教材準備や環境構成ができる(部分実習及び責任実習準備の充実) ・生活・遊びを促すための援助(かかわり)ができる ●実習記録 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児とのかかわりから保育士の意図を感じ取り学びや気づきを書くことができる ・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。 ・子どもの姿を場面で捉え、それを「乳幼児理解」につなげることができる。 ●指導案 <ul style="list-style-type: none"> ・指導案を書く意味が分かり、指導案を実践につなげることができる。(部分、責任) ●提出物 <ul style="list-style-type: none"> ・約束期日を守り、計画的にすすめる。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもとのかかわりを深めながら観察し、保育理念や保育の課程をおさえ、保育士の職務を理解できるようにする ●授業等で得た知識や技能を最大限に活かし総合的な実践ができるようにする。 				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づき及び実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>				

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期	
科目名	教育実習事前指導	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	高木 亜紀	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭として多くの幼児や保護者と関わった経験、学童保育指導員として小学生の生活や学習に関わった経験、子育てに関する活動(育児サークル主宰、企業による子どもを対象とした職業体験学習など)をもとに授業を行う。					
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的、心構えを学ぶ。 ・子どもと関わりながら幼児理解を深め、実践力を身に付ける。 ・指導案や日誌の書き方を理解する。 ・振り返りをし、自己評価を行い自己課題を明確にする。 					
授業概要	①教育実習の意義と目的、実習生との心構えを学ぶ。②幼児の発達の特性や発達過程を学ぶ。③幼児理解や観察の視点、方法、指導案作成等の習得に努める。④目標を持って実習に臨む態度を育成する。⑤実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。					
テキスト	・教育実習事前事後指導・実習マニュアル・実習日誌の書き方・保育実習学・保育者の常識67・DVD「幼児とのかかわりを考える」・幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説					
授業計画	第1回	実習の意義と目的・幼稚園教育の特質				
	第2回	実習生としての心構え				
	第3回	実習生としての心構え				
	第4回	子どもを取り巻く環境(環境構成)・幼児理解と保育				
	第5回	子どもを取り巻く環境(環境構成)・幼児理解と保育				
	第6回	教師の援助、保護者理解と支援				
	第7回	教師の援助、保護者理解と支援				
	第8回	教師の援助、特別な支援を要する子どもへの対応				
	第9回	教師の援助、特別な支援を要する子どもへの対応				
	第10回	実践演習:子ども理解に基づいた援助				
	第11回	実践演習:部分実習				
	第12回	実践演習:責任実習				
	第13回	実践演習:責任実習				
	第14回	実践の評価、自分の課題の明確化				
	第15回	実践の評価、自分の課題の明確化				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)	
科目名	こどもの指導法「音楽表現」	授業形態	演習	単位数	2単位	
担当教員	川内菜央・寺内めぐみ・市嶋融介	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスをを行っている。					
授業のねらい(到達目標)	目を間違えず、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける					
授業概要	こどもの指導法「音楽表現」第一教程で身に付けた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。					
テキスト	「こどもと音楽表現」「ブルクミュラー25の練習曲」「保育の四季 幼児の歌110曲集」					
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第8回	中間試験				
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
単位認定・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席	総合評価算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)	
科目名	こどもの指導法「音楽表現」	授業形態	演習	単位数	2単位	
担当教員	石川美穂・川内菜央・寺内めぐみ・市嶋融介	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者・学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスをを行っている。					
授業のねらい(到達目標)	目を同運つ、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける					
授業概要	こどもの指導法「音楽表現」第一教程で身に付けた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。					
テキスト	「こどもと音楽表現」「バイエルピアノ教則本」「保育の四季 幼児の歌110曲集」					
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第8回	中間試験				
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
単位認定・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席	総合評価算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	表現とこどもの運動	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	池 茜	実務経験の有無	×				
実務経験教員の経歴							
授業のねらい (到達目標)	子ども同士での運動遊びにおける表現や心身の健康など、援助者として発達状況に応じた援助の在り方を理解し、各種の問題に取り組むことができる。						
授業概要	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現運動遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。						
テキスト	表現とこどもの運動						
授業計画	第1回	表現とは					
	第2回	運動遊びのねらい					
	第3回	運動遊びの援助について					
	第4回	こどもの発達と運動について					
	第5回	身体・形態・機能・こころの発育発達					
	第6回	こどもと運動					
	第7回	運動遊びの基本的な動き					
	第8回	基本運動(歩・走・跳・投・押・引・転・登)					
	第9回	運動表現の要素(調整力・身体認知・空間認識)					
	第10回	身体コントロール能力の向上					
	第11回	調整力中心の体づくり運動					
	第12回	音・色などの刺激に対応する運動					
	第13回	表現運動実施の教育的意義					
	第14回	表現運動(運動遊び)実施上の留意点					
	第15回	表現運動(運動遊び)における安全指導					
単位認定 ・ 評価方法	中間評価:レポート 期末評価:期末試験		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:授業態度、提出物等			50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	こどもと造形	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	渡邊 恵美	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師						
授業のねらい (到達目標)	乳幼児造形教育の指導・援助者として、必要な形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について理解ができる。 えがく、つくる、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。 教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。						
授業概要	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。						
テキスト	造形表現論(豊岡短期大学)						
授業計画	第1回	幼児造形教育の重要性と研究の視点について					
	第2回	幼児造形(表現)の特徴・領域・道筋について					
	第3回	えがく領域に伴う製作I(えがく活動における指導・援助と実際)					
	第4回	えがく領域に伴う製作I(えがく活動における指導・援助と実際)					
	第5回	つくる領域に伴う製作I(つくる活動における指導・援助と実際)					
	第6回	つくる領域に伴う製作I(つくる活動における指導・援助と実際)					
	第7回	造形あそびの領域に伴う製作III(造形遊びにおける指導・援助と実際)					
	第8回	造形あそびの領域に伴う製作III(造形遊びにおける指導・援助と実際)					
	第9回	作品の研究及び発表					
	第10回	作品の研究及び発表					
	第11回	作品の研究及び発表					
	第12回	作品の研究及び発表					
	第13回	作品の研究及び発表					
	第14回	幼児造形教育の課題について					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	こどもの保健	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無		×			
実務経験教員の経歴							
授業のねらい (到達目標)	①子どもの発育について理解する ②子どもの疾病とその予防について理解する						
授業概要	保育者として子どもの健康を守り、子どものQOLの向上を目指す活動を行うための基本的なことを学ぶ。また、子どもに多い病気などの乳幼児期の健康を守るために必要な知識を身につける。						
テキスト	こどもの保健						
授業計画	第1回	子どもの保健の意義・健康の概念と健康指標					
	第2回	子どもの身体発育					
	第3回	子どもの生理機能の発達					
	第4回	子どもの運動機能の発達					
	第5回	感染症①感染症とは					
	第6回	感染症②感染症対策					
	第7回	感染症③保育園・幼稚園で問題となる感染症					
	第8回	感染症④保育園・幼稚園で問題となる感染症					
	第9回	予防接種					
	第10回	子どものかかりやすい病気①					
	第11回	子どものかかりやすい病気②					
	第12回	先天性疾患					
	第13回	歯と口の健康					
	第14回	健康に関する現状と課題					
	第15回	こどもの保健まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	社会的養護Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	児童養護施設での現場経験から、施設で生活する子どもたちの実際の姿や支援内容について実践的な指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	「社会的養護Ⅰ」で学んだ社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 社会的養護における虐待防止と家庭支援について理解する。						
授業概要	スクーリングによる体験的な授業で、主としてコミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術とネットワーク運営のための技術を身につける。						
テキスト							
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	子どもの最善の利益、意見表明権、子どもの権利を守る仕組み(演習)					
	第3回	資質と倫理(演習)					
	第4回	施設養護の体系					
	第5回	児童養護施設(演習)					
	第6回	乳児院(演習)					
	第7回	母子生活支援施設(演習)					
	第8回	障害児入所施設(演習)					
	第9回	児童自立支援施設(演習)					
	第10回	児童心理治療施設(演習)					
	第11回	家庭養護・家庭的養護の体系					
	第12回	里親(演習)					
	第13回	地域小規模児童養護施設(演習)					
	第14回	社会的養護の現状と課題					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期									
科目名	保育内容「健康」	授業形態	演習	単位数	1単位									
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無	×											
実務経験教員の経歴														
授業のねらい (到達目標)	人間が生きていくためのベースである健康な生活の基盤をどう育てるのかについて理解する													
授業概要	子どもたちが健康で安全な生活を送るために幼稚園・保育所等の幼児教育施設が果たす役割は大きい。子どもたちの心身の発達について理解し、子どもの健康に必要な体験とは何かを学び、保育者の果たす役割について考える。													
テキスト	なし													
授業計画	第1回	子どもとは・健康とは												
	第2回	領域「健康」の意味												
	第3回	子どもの身体の発達・発達①形態的発達												
	第4回	子どもの身体の発達・発達②生理機能の発達												
	第5回	子どもの身体の発達・発達③生理機能の発達												
	第6回	子どもの身体の発達・発達④運動機能の発達												
	第7回	乳幼児期の安全教育とけがの防止①												
	第8回	乳幼児期の安全教育とけがの防止②												
	第9回	乳幼児期の生活習慣の形成①食												
	第10回	乳幼児期の生活習慣の形成②睡眠												
	第11回	乳幼児期の遊びと運動												
	第12回	子どものこころの健康												
	第13回	健康をめぐる現代的課題												
	第14回	健康と保育の活動内容												
	第15回	幼保小連携と保育内容「健康」のまとめ												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	こどもの食と栄養	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	萱場 佳代	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	企業での調乳・離乳食指導、特定保健指導、母親教室、料理教室講師 新潟市 母子保健事業、特定保健指導、学校等での出張授業講師 他						
授業のねらい (到達目標)	子どもの身体の特徴を理解し、小児期に必要な栄養・食生活の重要性と、それぞれの時期に応じた食事の知識を習得し、食育につなげていけるものとする。						
授業概要	基本的な栄養・食生活の知識を学ぶ。 離乳食から幼児期への子どもの発育発達と、それぞれの時期に応じた栄養補給、食事の知識を学ぶ。 食育の重要性を学び、子どもたちへの伝えかたを考える。 実際に調整粉乳、離乳食、幼児食の調理を行い、形態や味を確認する。 乳幼児期における食物アレルギーについて学ぶ。						
テキスト	「こどもの食と栄養」豊岡短期大学						
授業計画	第1回	栄養に関する基礎知識(五大栄養素の体内での働き)					
	第2回	ビタミン・ミネラルの種類・働き・食品					
	第3回	母乳栄養(初乳・長所・短所・母乳不足)					
	第4回	人工栄養(調整粉乳・フォローアップミルク・特殊ミルク)					
	第5回	離乳の定義、離乳食の進め方と注意点					
	第6回	幼児期の栄養・食生活					
	第7回	間食の必要性和与え方					
	第8回	幼児期の栄養・食生活上の問題と対応					
	第9回	乳幼児期の食物アレルギー					
	第10回	食育の必要性(ねらいと内容)					
	第11回	食育の実践					
	第12回	実習(調乳・離乳食の調理)					
	第13回	実習(幼児食の調理)					
	第14回	実習(間食の調理)					
	第15回	まとめ 期末試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	障害児保育	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	障害児・者の入所及び通所施設、障害者グループホーム、地域生活支援センター、放課後保護サービス事業等の知的障害児・者支援で培った、様々な障害や疾病の特性の知識、それに応じた支援方法のもとより、障害観の変化、法律や制度の変遷を踏まえ、利用者主体の支援の意義と実際の支援における視点について、保育実習指導と関連付けながら学ぶ、実践に役立つ授業とする。						
授業のねらい (到達目標)	1、障害児保育を支える理念が説明できる。 2、個々の障害の特性・心身の発達に応じた援助や配慮を理解する。 3、特別の配慮を要する子どもの保育に係る個別支援計画が作成できる。 4、家庭支援や関係機関との連携・協働について説明できる。 5、障害児保育の現状と課題について学ぶ。						
授業概要	障害児保育の歴史と障害理念の学びの上に、個々の障害の特性について学び、インクルーシブ教育を実践する視点から、保育の専門職として体得すべき資質について考える。						
テキスト	障害児保育(配本テキスト)						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	障害の理解 ICIDH、ICF、子どもの最善の利益					
	第3回	日本における障害児教育の歴史					
	第4回	障害のある子どもの暮らしを支える福祉・医療の制度 障害手帳、発達障害者支援法、障害者総合支援法					
	第5回	地域における専門機関との連携 発達支援センター、他職種連携					
	第6回	障害児保育の実際 ①知的障害児・発達障害児への支援					
	第7回	障害児保育の実際 ②肢体不自由児・					
	第8回	障害児保育の実際 ③肢体不自由児への支援					
	第9回	障害児保育の実際 ④重度心身障害児への支援					
	第10回	障害児保育の実際 ⑤視覚障害児への支援					
	第11回	障害児保育の実際 ⑥聴覚障害児への支援					
	第12回	障害児保育の実際 ⑦言語障害児への支援					
	第13回	障害児保育の実際 ⑧病弱・身体虚弱児への支援					
	第14回	障害児保育の実際 ⑨気になる子への支援					
	第15回	効果測定					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
			50%	25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期									
科目名	こどもの理解と援助	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	阿久津 洋巳	実務経験の有無		×										
実務経験教員の経歴														
授業のねらい (到達目標)	子ども理解と援助について、授業計画の各項目について理解し、それを踏まえて将来の実践にどのように活かしたいか考えることができる													
授業概要	保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。子どもを理解するための具体的な方法を理解する。子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。													
テキスト	保育所保育指針(厚生労働省)、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)													
授業計画	第1回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握①												
	第2回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握②												
	第3回	子どもを理解する視点:子どもの生活や遊び												
	第4回	子どもを理解する視点:保育の人的環境としての保育者と子どもの発達												
	第5回	子どもを理解する視点:子ども相互の関わりと関係づくり												
	第6回	子どもを理解する視点:集団における経験と育ち												
	第7回	子どもを理解する視点:葛藤やつまずき												
	第8回	子どもを理解する視点:保育の環境の理解と構成												
	第9回	子どもを理解する視点:環境の変化や移行												
	第10回	子どもを理解する方法:観察・記録												
	第11回	子どもを理解する方法:省察・評価												
	第12回	子どもを理解する方法:職員間の対話												
	第13回	子どもを理解する方法:保護者との情報の共有												
	第14回	子どもの理解に基づく発達援助①												
	第15回	子どもの理解に基づく発達援助②												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期									
科目名	環境論	授業形態	演習	単位数	1単位									
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。													
授業のねらい (到達目標)	1. 領域「環境」のねらいと内容を理解する。 2. 子どもを取り巻く様々な環境を理解し、関心を持つ。 3. 「環境を通して行う教育」を理解し、意図ある環境構成の実践を行う。													
授業概要	現在の子どもを取り巻く環境の変化について学びながら、保育に必要な基礎専門知識を得る。 子どもの発育・発達における環境とのかかわりの重要性を学びながら、保育の環境や環境構成のあり方について理解し、校外学習を通して環境構成の実践を行う。													
テキスト	新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 環境													
授業計画	第1回	環境とは何か？ 環境の定義 子どもを取り巻く環境の変化を知る												
	第2回	身近な環境について考える①少子化												
	第3回	身近な環境について考える②メディア												
	第4回	領域「環境」の理解 環境を通して行う保育 教師の願いを込める												
	第5回	環境の構成 校外学習計画①												
	第6回	校外学習①地域探検												
	第7回	環境の構成 校外学習計画②												
	第8回	環境の構成 校外学習計画②												
	第9回	環境の構成 校外学習計画②												
	第10回	校外学習②												
	第11回	校外学習②												
	第12回	校外学習②												
	第13回	校外学習②												
	第14回	まとめ・振り返り①												
	第15回	まとめ・振り返り②												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	こどもの指導法「環境」	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。						
授業のねらい (到達目標)	1. 領域「環境」のねらいと内容を理解する。 2. 子どもを取り巻く様々な環境を理解し、関心を持つ。 3. 保育者の役割を常に考え、保育実践力を身につける。						
授業概要	現在の子どもを取り巻く環境の変化について学びながら、保育に必要な基礎専門知識を得る。 子どもの発育・発達における環境とのかかわりの重要性を学びながら、保育の環境や環境構成のあり方について理解する。						
テキスト	新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 環境						
授業計画	第1回	環境とは何か？ 環境の定義					
	第2回	環境とは何か？ 子どもを取り巻く環境の変化を知る					
	第3回	領域「環境」の理解 ねらいと内容					
	第4回	領域「環境」の理解 環境を通して行う保育					
	第5回	環境の構成 教師の願いを込める					
	第6回	環境の構成 身近な環境の構成					
	第7回	環境の構成 季節や地域の行事					
	第8回	環境の構成 好奇心・探究心を育てる環境					
	第9回	園での実際の環境構成(映像学習)①					
	第10回	園での実際の環境構成(映像学習)②					
	第11回	園での実際の環境構成(映像学習)③					
	第12回	保育者の存在 人的環境の重要性					
	第13回	標識・文字、数量・図形との出会い					
	第14回	ねらいを達成するための環境構成の工夫(校外学習計画)					
	第15回	校外学習					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	こどもの指導法「言語表現」	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。						
授業のねらい (到達目標)	1. 保育内容の領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 2. 保育現場における児童文化財の重要性を考え理解し、保育士・幼稚園教諭に求められる専門知識技術・言語表現力を高める。 3. 幼児の発達や学びの過程を理解するとともに、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した模擬保育の実施とその振り返りを通して、保育を実践する力を身に付ける。						
授業概要	自己紹介絵本制作を通して、児童文化財への理解を深めると共に、制作技術の向上を図る。 絵本の読み聞かせを通して、自身の保育観に沿った絵本選びを行い、実践的な技術を習得する。 以上2点を通して、保育観の醸成、自己分析を行う。						
テキスト	ことばと表現力を育む児童文化〈第2版〉 萌文書林						
授業計画	第1回	授業の目的と概要 領域「言葉」の内容の確認					
	第2回	子どもの言葉を育むさまざまな児童文化財 様々な絵本の種類 子どもの発達に合わせた絵本の選び方					
	第3回	ことばの発達と遊び いろいろなことば遊び					
	第4回	図書館での教材研究 領域「言葉」を中心とした絵本の読み聞かせの指導案作成					
	第5回	図書館での教材研究 領域「言葉」を中心とした絵本の読み聞かせの指導案作成					
	第6回	図書館での教材研究 領域「言葉」を中心とした絵本の読み聞かせの指導案作成					
	第7回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第8回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第9回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第10回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第11回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第12回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第13回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第14回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第15回	まとめ 児童文化財を生かしたさまざまな保育実践 児童文化財を生かした保育の展開					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期	
科目名	こどもの指導法「造形表現」	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	渡邊 恵美	実務経験の有無		○		
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師					
授業のねらい (到達目標)	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。					
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。					
テキスト	造形表現論(豊岡短期大学)					
授業計画	第1回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携(「図画工作」の学習指導要領)				
	第2回	造形教育の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴				
	第3回	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価				
	第4回	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価				
	第5回	教材研究を伴う製作I(えがく)				
	第6回	教材研究を伴う製作I(えがく)				
	第7回	教材研究を伴う製作I(つくる)				
	第8回	教材研究を伴う製作I(つくる)				
	第9回	教材研究を伴う製作Ⅲ(造形あそび)				
	第10回	教材研究を伴う製作Ⅲ(造形あそび)				
	第11回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)				
	第12回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)				
	第13回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)				
	第14回	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)と情報機器及び教材の活用まとめ				
	第15回	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)と情報機器及び教材の活用まとめ				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	特別支援教育	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	昭和48年障害児施設入職以降、養護学校義務制前後から、障害児の教育支援活動、就労支援施設でのジョブコーチ等の実践の中で、障害を持つ児童・生徒のライフステージを見通した特別支援教育の在り方を現場の職員集団の中で試行してきた。特別支援教育の源流であるインテグレーションが、インクルージョンという広い川に注ぎ込む今、特別支援教育に関わる者が持つべき専門性について、現場経験を基に解説する。						
授業のねらい (到達目標)	1、インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の制度や理念仕組みが説明できる。2、様々な障害のある幼児の生活上及び認知機能における困難について基礎部分が説明できる。						
授業概要	特別な教育的ニーズをもつ子どもたちの支援にあたり、その特性の理解はいうまでもなく、その支援のために必要な社会資源や関係機関の知識、個別の教育支援計画の作成方法と利用方法、教育課程の学びと生活の場の在り方についても理解を深められるよう、特別支援教育に関わる幅広いないようを学習する。						
テキスト	「特別支援教育」(配本テキスト)						
授業計画	第1回	特別な教育的ニーズをもつ子どもの教育課程					
	第2回	発達障害や軽度知的障害をもつ子どもの特性					
	第3回	視覚障害を持つ子どもへの支援					
	第4回	聴覚障害を持つ子どもへの支援					
	第5回	言語障害を持つ子どもへの支援					
	第6回	知的障害を持つ子どもへの支援					
	第7回	発達障害や軽度知的障害をもつ子どもの特性を持つ子どもへの支援					
	第8回	肢体不自由を持つ子どもへの支援					
	第9回	病弱・虚弱を持つ子どもへの支援					
	第10回	子どものニーズに合わせた支援					
	第11回	教育チームによる組織的支援					
	第12回	特別支援教育コーディネーター					
	第13回	保護者や家庭との連携					
	第14回	特別な教育的ニーズ					
	第15回	効果測定					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期	
科目名	こどもの理解と相談支援	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	阿久津 洋巳	実務経験の有無	×			
実務経験教員の経歴						
授業のねらい (到達目標)	幼児教育の課題と家庭との連携の在り方、心理アセスメントの活用について理解できるようになる。カウンセリングの基本と心理アセスメントの活用、保・幼・小及び家庭との連携が理解できるようになる。					
授業概要	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象とした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応などについて学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。					
テキスト	こどもの理解と相談支援(豊岡短期大学)					
授業計画	第1回	こどもの実態に応じた発達や学びの把握				
	第2回	相談支援の基本 相談支援の基本・カウンセリングの基本とカウンセリングの基本的な方法				
	第3回	こどもを理解する視点①				
	第4回	こどもを理解する視点②				
	第5回	こどもを理解する方法①				
	第6回	こどもを理解する方法②				
	第7回	こどもを理解する方法③				
	第8回	こどもの自己理解を進める技法				
	第9回	幼児・こども理解とカウンセリング・マインド				
	第10回	幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援				
	第11回	小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援				
	第12回	相談支援の実際①				
	第13回	相談支援の実際②				
	第14回	相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援				
	第15回	相談支援の課題と対応				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	保育実習指導ⅡⅢ	授業形態	演習	単位数	1単位
担当教員	笠井多佳子	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	公立園での勤務経験から現場に求められる保育者像について実践的な指導を「行う				
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けての基本的な心構えを理解したり、幼稚園実習について理解する。 ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認し、多方面から「活動」を考える。 ・実習の振り返りをその都度行い、課題や反省点を明確にし次の実習に繋げる。 ・見通しをもち、臨機応変に動く力や子ども達の前で演じる(伝える)力を身につける。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省 課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める。 				
テキスト	外部実習マニュアル・パーフェクトガイド(施設実習、保育実習・幼稚園こども園実習)・前年度配布プリント等				
授業計画	第1回	保育実習Ⅰの振り返りをする			
	第2回	保育実習Ⅰの振り返りをする			
	第3回	保育所実習のエピソードをまとめ、次の実習の課題を明確にする			
	第4回	保育所実習のエピソードをまとめ、次の実習の課題を明確にする			
	第5回	事例検討①(5領域のねらいについて考える)			
	第6回	事例検討②(子供の心に寄り添うとは何か?)			
	第7回	施設実習の準備	実習記録について考える①		
	第8回	施設実習の準備	実習記録について考える②		
	第9回	施設実習の準備	実習記録について考える③		
	第10回	施設実習の準備	指導案の立て方④		
	第11回	施設実習の準備	指導案の立て方⑤		
	第12回	保育実習Ⅰ(施設実習)の振り返りをする。			
	第13回	責任実習の立て方について			
	第14回	責任実習の立て方について			
	第15回	責任実習の立て方について			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期	
科目名	保育実習指導ⅡⅢ	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	笠井 多佳子	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	公立保育園30年勤務。現場での経験を踏まえ、授業を行う。					
授業のねらい (到達目標)	・児童福祉施設(保育所)含、その他社会福祉施設の養護を実際に行い、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。・家庭と地域の実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育て支援するために必要とされる能力を養う。					
授業概要	①養護技術の習得②子ども、利用者の個人差を学び、援助技術について理解する③個人差に合った指導案を立案し、実践する④実習後自分の課題に気づき、次回に活かせるように話し合ったり、考えたりする⑤家族とのコミュニケーションの方法を学ぶ⑥地域社会との連携の方法を学ぶ⑦子どもの最善の利益・社会倫理について学ぶ⑧専門職としての資質・能力・技術について振り返り自己課題を明確化する					
テキスト	・実習マニュアル・保育実習指導・保育実習学・保育者の常識67・DVD「施設実習の予備知識」・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説					
授業計画	第1回	養護全般に参加し、養護技術を習得する。				
	第2回	養護技術を習得する。				
	第3回	子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。				
	第4回	子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。				
	第5回	子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。				
	第6回	援助計画を立案し、実際に実践する。				
	第7回	援助計画を実践した上で見えてきた改善点、良かった点などをグループワークする。				
	第8回	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。				
	第9回	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。				
	第10回	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。				
	第11回	地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。				
	第12回	地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。				
	第13回	こどもの最善の利益を具体的に学ぶ。				
	第14回	保育士としての倫理を具体的に学ぶ。				
	第15回	児童福祉施設の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて自己の課題を明確化する。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)
科目名	保育実習指導	授業形態	演習	単位数	1単位
担当教員	笠井多佳子	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	公立園での勤務経験から現場に求められる保育者像について実践的な指導を行う。				
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けての基本的な心構えを理解したり、施設について理解する。 ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認して自分なりに立てる。 ・実習の振り返りをして課題や反省点をみつけ次に繋げる。 ・見通しをもち場面に対応して動く力や子ども達の前で演じる(伝える)力を身につける。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省 課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める。 				
テキスト	外部実習マニュアル・パーフェクトガイド(施設実習、保育実習・幼稚園子ども園実習)・前年度配布プリント等				
授業計画	第1回	ファイルの綴じ方や表紙の書き方を確認する			
	第2回	責任実習について①			
	第3回	責任実習について②			
	第4回	保育所実習の準備をするア(部分実習の模擬保育)			
	第5回	保育所実習の準備をする			
	第6回	保育所実習の準備をする			
	第7回	保育所実習の準備をする			
	第8回	保育所実習の準備をする (模擬保育実践)			
	第9回	保育所実習の準備をする (模擬保育実践)			
	第10回	保育実習 I 実習ファイルについて			
	第11回	保育実習 I 実習ファイルについて			
	第12回	オリエンテーションの準備をする			
	第13回	保育所実習の準備をする			
	第14回	保育所実習の準備をする			
	第15回	保育所実習の準備をする			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	こども家庭支援論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	障害児・者の入所及び通所施設、障害者グループホーム、地域生活支援センター、放課後保護サービス事業等の知的障害児・者支援で、「子ども家庭支援」に携わり、の支援を必要とする当事者と共に、その家族に対するサポートの重要性を実感してきた。その体験を基に、「子ども家庭支援」の支援の意義及び実際の支援における視点について、保育実習指導と関連付けながら学び、実践に役立つ授業とする。						
授業のねらい (到達目標)	1、子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解する。2、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題を理解する。3、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する4、特別なニーズを持つ子育て家庭への支援としての関係機関の連携を理解する。						
授業概要	多様な家族や家庭に関わる際に必要な専門職としての態度を学ぶために、事例研究を多くとり入れた授業を行う。保育理念の子どもの最善利益の保障は、子どもやその家族との対人関係における円滑なコミュニケーションの確立が大前提であること、そのための自己覚知と他者理解の重要性を理解する。						
テキスト	「子ども家庭支援論」(配本テキスト)						
授業計画		家族・家庭・世帯					
	第2回	家族と家庭の形態と機能					
	第3回	ライフステージ					
	第4回	社会環境の変化と現代の家庭					
	第5回	現代の家庭と子育てをめぐる問題					
	第6回	要保護家庭の問題					
	第7回	子育て家庭を支援する法・制度					
	第8回	子育て家庭を支援する社会資源					
	第9回	新たな子育て支援制度					
	第10回	子育て家庭支援の体系					
	第11回	保育者による家庭支援の原理					
	第12回	保育所における子育て家庭支援					
	第13回	地域における子育て家庭支援					
	第14回	子どもの家庭福祉の諸相					
	第15回	要保護児童とその家族に対する支援					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施	授業時数の2/3以上の出席	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	こどもの健康と安全	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無		×			
実務経験教員の経歴							
授業のねらい (到達目標)	①保育における衛生管理について理解する ②保育における事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する ③子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する ④健康状態の評価について理解する						
授業概要	子どもの健康状態をどう評価するのかを学び、子どもの姿を正しく捉えることや、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策を踏まえた保健計画や活動内容について知識を深める。また、子どもの体調不良等に対する適切な対応について、実践できる力を養う。						
テキスト	なし						
授業計画	第1回	保育における保健活動の計画と評価					
	第2回	健康状態の評価と健康観察・健康診断					
	第3回	身体計測と発育評価					
	第4回	保育における衛生管理					
	第5回	保育における事故防止・安全対策・災害対策					
	第6回	子どもの体調不良時の対応①発熱・咳・けいれん					
	第7回	子どもの体調不良時の対応②嘔吐・下痢・発疹					
	第8回	子どもの体調不良時の対応③腹痛・頭痛					
	第9回	応急処置①					
	第10回	応急処置②					
	第11回	応急処置③					
	第12回	アレルギー疾患①概要					
	第13回	アレルギー疾患②アトピー性皮膚炎と気管支喘息					
	第14回	アレルギー疾患③食物アレルギー					
	第15回	地域保健					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)	
科目名	情報処理Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。					
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に、Excelの知識と技術が必要となる。本教科では、Excelを基礎から学習し活用できる能力を身につける。					
授業概要	Excel2016を用いて表の作成、データベース機能、種々の関数を用いた計算、各種グラフの作成など、基礎知識と活用方法を習得し、技術向上を図る。MOS Excel2016 検定合格を目指す。					
テキスト	Excel2016セミナーテキスト基礎・Excel2016対策テキスト&問題集					
授業計画	第1回	本演習のガイダンス、ネットワーク接続、プリンタ設定 Excelの基本操作				
	第2回	表の作成				
	第3回	四則演算と関数1				
	第4回	四則演算と関数2				
	第5回	表の編集1				
	第6回	表の編集2				
	第7回	基礎まとめと復習				
	第8回	ワークシートやブックの作成と管理1				
	第9回	ワークシートやブックの作成と管理2				
	第10回	ワークシートやブックの作成と管理3				
	第11回	セルやセル範囲のデータ管理1				
	第12回	セルやセル範囲のデータ管理2				
	第13回	数式や関数を使用した演算の実行1				
	第14回	数式や関数を使用した演算の実行2				
	第15回	数式や関数を使用した演算の実行3				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)		
科目名	情報処理Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に、Excelの知識と技術が必要となる。本教科では、Excelを基礎から学習し活用できる能力を身につける。						
授業概要	Excel2016を用いて表の作成、データベース機能、種々の関数を用いた計算、各種グラフの作成など、基礎知識と活用方法を習得し、技術向上を図る。MOS Excel2016 検定合格を目指す。						
テキスト	Excel2016セミナーテキスト基礎・Excel2016対策テキスト&問題集						
授業計画	第1回	グラフやオブジェクトの作成1					
	第2回	グラフやオブジェクトの作成2					
	第3回	模擬1(演習)					
	第4回	模擬1(演習)					
	第5回	模擬1(テスト)					
	第6回	模擬2(演習)					
	第7回	模擬2(テスト)					
	第8回	模擬3(演習)					
	第9回	模擬3(テスト)					
	第10回	模擬4(演習)					
	第11回	模擬4(テスト)					
	第12回	模擬5(演習)					
	第13回	模擬5(テスト)					
	第14回	実力判定(演習)					
	第15回	実力判定(テスト)					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)		
科目名	教材研究Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	円山昭子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	公立保育園35年6か月の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行						
授業のねらい (到達目標)	素材の活かし方・制作手順の要領を良くする方法など、学び合いながら習得していく 実際に子どもたちとする時の配慮点などを考えながら、製作技術やあそびの習得を目指す						
授業概要	様々な素材と技法について体験し、子どもに指導する際の配慮などを考える 年齢別の対象を配慮しながら、丁寧にグッズを作ったり演じたりして見せ合う						
テキスト	「基本の遊びと広げ方」「すきま時間あそび107」&必要に応じてプリント						
授業計画	第1回	前年度から続いているパネルシアター制作 最後の仕上げ (表裏の貼り方や糸止めなどの仕掛けの仕方)と練習(導入と終わり方を含む)					
	第2回	パネルシアターの発表と改善点の出し合い					
	第3回	"					
	第4回	テキスト「すきま時間あそび107」をまるごとあそぶ					
	第5回	テキスト「すきま時間あそび107」をまるごとあそぶ続き					
	第6回	制作の教材研究 様々な素材や制作の裏技について理解を深めるとともに、子どもたちと制作をする時の留意点などを確認する 例:同じ形を沢山作る時の工夫など					
	第7回	手袋シアター制作					
	第8回	"					
	第9回	仕上げと発表					
	第10回	たたみじかけシアターの制作(自己紹介用も兼ねる) 1~2種					
	第11回	たたみじかけシアターの発表と展示(見せ合い)					
	第12回	乳児・幼児年齢別グッズ制作 作りたいものを考えて作る (カードシアター、スケッチブック、ペープサートなど題材自由)"					
	第13回	"					
	第14回	"					
	第15回	完成したものを実演し合う					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する			50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)		
科目名	教材研究Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	円山昭子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	公立保育園35年6か月の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行						
授業のねらい (到達目標)	様々な保育教材を知り、理解を深める 子どもたちと楽しむために必要な技術を学び合う						
授業概要	あそび歌・素話・科学あそび・伝承遊びグッズ制作など、色々な子どもとの遊びについて学ぶ 実際に子ども達と遊ぶ為の方法や配慮について年齢別に考えたり実践して見せ合ったりする						
テキスト	「基本の遊びと広げ方」「すきま時間あそび107」&必要に応じてプリント						
授業計画	第1回	小麦粉粘土・スライム・科学あそび系を順次学ぶ 実際にやってみる中で配慮点など見つけていく					
	第2回	〃					
	第3回	手あそび歌あそびわらべうたのレパートリーを増やし、 習得したものを発表し合って更に使える数を増やしていく					
	第4回	〃					
	第5回	保育グッズを作ったり使う際の練習をし、見せ合う					
	第6回	〃					
	第7回	〃					
	第8回	素話を聞く・題材を選んで練習する・実際にやってみる					
	第9回	〃					
	第10回	クリスマス関連のあそびとグッズ制作					
	第11回	〃					
	第12回	伝承遊び(あやとり・こま・凧揚げ・お手玉・けん玉)					
	第13回	〃					
	第14回	体操やダンスの振付を見て覚え、グループで練習をしマスターする					
	第15回	子どもたちへの教え方も考え、他グループに実際に教えて一緒にやってみる					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)	
科目名	実習指導Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	笠井多佳子	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	公立園での勤務経験から現場に求められる保育者像について実践的な指導を行う。					
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けての基本的な心構えを理解したり、施設について理解する。 ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認して自分なりに立てる。 ・実習の振り返りをして課題や反省点をみつけ次に繋げる。 ・見通しをもち場面に対応して動く力や子ども達の前で演じる(伝える)力を身につける。 					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省 課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める。 					
テキスト	外部実習マニュアル・パーフェクトガイド(施設実習、保育実習・幼稚園子ども園実習)・前年度配布プリント等					
授業計画	第1回	ファイルの綴じ方や表紙の書き方を確認する				
	第2回	責任実習について①				
	第3回	責任実習について②				
	第4回	保育所実習の準備をするア(部分実習の模擬保育)				
	第5回	保育所実習の準備をする				
	第6回	保育所実習の準備をする				
	第7回	保育所実習の準備をする				
	第8回	保育所実習の準備をする (模擬保育実践)				
	第9回	保育所実習の準備をする (模擬保育実践)				
	第10回	保育実習Ⅰ実習ファイルについて				
	第11回	保育実習Ⅰ実習ファイルについて				
	第12回	オリエンテーションの準備をする				
	第13回	保育所実習の準備をする				
	第14回	保育所実習の準備をする				
	第15回	保育所実習の準備をする				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)
科目名	実習指導Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2単位1
担当教員	笠井多佳子	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	公立園での勤務経験から現場に求められる保育者像について実践的な指導を」行う				
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けての基本的な心構えを理解したり、幼稚園実習について理解する。 ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認し、多方面から「活動」を考える。 ・実習の振り返りをその都度行い、課題や反省点を明確にし次の実習に繋げる。 ・見通しをもち、臨機応変に動く力や子ども達の前で演じる(伝える)力を身につける。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省 課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める。 				
テキスト	外部実習マニュアル・パーフェクトガイド(施設実習、保育実習・幼稚園こども園実習)・前年度配布プリント等				
授業計画	第1回	保育実習Ⅰの振り返りをする			
	第2回	保育実習Ⅰの振り返りをする			
	第3回	保育所実習のエピソードをまとめ、次の実習の課題を明確にする			
	第4回	保育所実習のエピソードをまとめ、次の実習の課題を明確にする			
	第5回	事例検討①			
	第6回	事例検討②			
	第7回	施設実習の準備	実習記録について考える①		
	第8回	施設実習の準備	実習記録について考える②		
	第9回	施設実習の準備	実習記録について考える③		
	第10回	施設実習の準備	指導案の立て方④		
	第11回	施設実習の準備	指導案の立て方⑤		
	第12回	保育実習Ⅰ(施設実習)の振り返りをする。			
	第13回	責任実習の立て方について			
	第14回	責任実習の立て方について			
	第15回	責任実習の立て方について			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)		
科目名	リトミック	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	小見 英晴	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭7年 リトミック指導16年						
授業のねらい (到達目標)	「幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格」を取得することをねらいとする。						
授業概要	「幼稚園・保育園のための2級指導資格」を取得することをねらいとし、そのためのリズム、ティーチング、リズムの演奏法を修得する。						
テキスト	「幼稚園、保育園のためのリトミック 3歳児用」 「幼稚園、保育園のための4歳児用」 「幼稚園、保育園のためのリトミック 5歳児用」						
授業計画	第1回	リトミックについて 楽しいリトミックの経験					
	第2回	楽しいリトミックの経験 強弱・テンポ・空間・アクセント					
	第3回	基礎リズム 基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点					
	第4回	3歳児指導法-1学期 リズムの演奏法(3歳児指導法-1学期)					
	第5回	楽しいリトミックの経験 基礎的な動き					
	第6回	基礎リズム(2拍子) 拍子					
	第7回	3歳児指導法-2学期 リズムの演奏法(3歳児指導法-2学期)					
	第8回	楽しいリトミックの経験 基礎リズム(2拍子)					
	第9回	拍子 ティターティ・ターイティを含む					
	第10回	3歳児指導法-3学期 リズムの演奏法-3学期					
	第11回	楽しいリトミックの経験 基礎リズム(3・4拍子)					
	第12回	拍子 楽しいリトミックの経験					
	第13回	リズムカノン導入 リズムフレーズ2・3拍子					
	第14回	リズムの演奏法(3歳児指導法-1~3学期) リトミックの理論とダルクルーズについて					
	第15回	2級 資格認定試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)		
科目名	リトミック	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	小見 英晴	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭7年 リトミック指導16年						
授業のねらい (到達目標)	「幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格」を取得することをねらいとする。						
授業概要	「幼稚園・保育園のための2級指導資格」を取得することをねらいとし、そのためのリズム、ティーチング、リズムの演奏法を修得する。						
テキスト	「幼稚園、保育園のためのリトミック 3歳児用」 「幼稚園、保育園のための4歳児用」 「幼稚園、保育園のためのリトミック 5歳児用」						
授業計画	第1回	リズム ティーチング					
	第2回	リズムの演奏法 理論					
	第3回	4歳児指導法-1学期 4歳児指導法-2学期					
	第4回	楽しいリトミックの経験 リズムカノン3拍子					
	第5回	リズムフレーズ2・3拍子 リズムの演奏法(4歳児指導法-1~2学期)					
	第6回	4歳児指導法-3学期 5歳児指導法-1学期					
	第7回	楽しいリトミックの経験 リズムカノン3・4拍子					
	第8回	複リズム(Ostinatoター) リズムの演奏法(4歳児指導法-3学期)					
	第9回	リズムの演奏法(5歳児指導法-1学期) 5歳児指導法-2学期					
	第10回	5歳児指導法-3学期 楽しいリトミックの経験					
	第11回	リズムカノン3・4拍子 複リズム(Ostinatoター)					
	第12回	リズムの演奏法(5歳児指導法-2~3学期) 楽しいリトミックの経験					
	第13回	リズムカノン3・4拍子 複リズム(Ostinatoター)					
	第14回	リズムカノン3・4拍子 複リズム(Ostinatoター) リトミックの理論とダルクローズについて					
	第15回	1級 資格認定試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期									
科目名	R・G・S	授業形態	演習	単位数	1単位									
担当教員	本田 拓也	実務経験の有無	×											
実務経験教員の経歴														
授業のねらい (到達目標)	次年度に控える就職活動に向けて、就活スキルやマナーを身につける。													
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの生き立ちを振り返りながら「自己分析」をする。 ・ 自身の進路に対する希望を明確にし、「園研究」をする。 ・ 「履歴書」「添え状」等の書き方を学ぶ。 ・ 面接の場にふさわしいマナーや立居振舞を学び、面接練習をおこなう。 													
テキスト														
授業計画	第1回	就職活動について												
	第2回	就職活動について												
	第3回	自己分析												
	第4回	自己分析												
	第5回	自己分析												
	第6回	園研究												
	第7回	園研究												
	第8回	園研究												
	第9回	就職活動の書類準備												
	第10回	就職活動の書類準備												
	第11回	面接立居振舞												
	第12回	就職実務研修												
	第13回	就職実務研修												
	第14回	就職実務研修												
	第15回	就職実務研修												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											